

令和2年度校内研修中間まとめ

光市立浅江中学校

1. 本年度の研修テーマ

主体的・対話的で深い学びの視点に立った 9年間のつながりのある授業の実践

～質の高い学びを実現し、自己を変容させる生徒の育成～

2. 研修テーマ設定の意図

本校では昨年度まで、生徒の主体的な学習につながる授業改善への取組として、以下のことに重点を置き、実践を行なってきた。

重点取組（R1）	成 果
① ねらい・課題を明確にした授業づくり	学習のゴールを明確にし、生徒が目的意識をもって学習に臨むようになった。
② 対話的な学びを効果的に仕組む授業づくり	・小グループで対話をする場面が増え、互いの意見を聞き、参考にし合うことで学習が深まるようになってきた。 ・学習に困難を抱える生徒が、友達の説明を聞いて課題を解決できるようになった。 ・少人数での活動場面では、失敗や間違いを恐れることなく発言・発表できる生徒が増えてきた。
③ 授業のふり返りの充実	学習内容を整理し、自己の変容に気づくとともに、次回の学習への意欲を高めることができた。

学校全体でこうした事項に継続的に取り組んできたことにより、自ら設定した目標に向かって主体的に学ぶ生徒たちの姿が多く見られるようになってきた。そこで今年度はこれらの成果を踏まえ、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究を行うとともに、小中9年間のつながりの中で生徒の学びをさらに充実させるためには、以下のような視点をもち、研修を進めることが必要であると考えた。

【研修の視点】

① 対話的な学びの質を高めるための研修

生徒同士が意見を交わしながら課題に取り組む姿は日常的に見られるようになってきたが、それが必ずしも学びの質の向上につながっているわけではない。学びの質を高める対話＝「意見を交換するだけに留まらず、相手の意見を踏まえて自分の意見を再構成したり、修正したりしながら思考や表現を変容させていく活動」「意味ある対話（アウトプット）を実現させるための上質なインプットを行う活動」についての研修を日常的に行う必要がある。

② 小中一貫教育の充実

本年度より浅江小・中学校は小中一貫教育校としての運営体制となり、これまで以上に小学校との連携強化を行い、9年間の系統性・体系性に配慮した教育活動を展開していくことが求められている。授業者が9年間の系統性を意識した授業を行うことで、児童・生徒はこれまで学んだことが新しい学びにつながることを実感し、学習をより深めていくことが期待できる。

③ 社会の変化・要請に対応した教育実践の具体化(1)「臨時休業措置における学力保障」

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年2月末より続いた臨時休業において、いかに生徒の学力を保障していくかについては頭を悩ませる大きな課題であった。臨時休業は終了したが、感染症が撲滅できたわけではなく、再び休業になる可能性がないとは言いきれない。生徒が登校できない状況でいかに学校としての機能を果たしていくかは今後とも考えておくべき重要な課題である。

④ 社会の変化・要請に対応した教育実践の具体化(2)「GIGAスクール構想に基づいた教育実践の推進」

また、感染爆発に伴い、5カ年計画で進められていたGIGAスクール構想も急ピッチで整備が進められ、予定を大幅に早めて令和3年初頭には光市内全小中学生および教職員にタブレット端末が貸与される運びとなった。このICT機器を効果的に活用し、ICTによって「主体的・対話的で深い学び」を実現するための方策を研修する必要がある。

これらの取組に全校体制で取り組み、生徒の豊かな学びを実現するための研修することを目指して、本年度の研修テーマを「主体的・対話的で深い学びの視点に立った9年間のつながりのある授業の実践 ～質の高い学びを実現し、自己を変容させる生徒の育成～」とした。

3. 研修の主な取組内容

① ユニット型研修による授業改善

小グループでの気軽な授業公開を通して、日常的な授業改善に取り組む研修。原則として「質の高い対話的な場面の仕組み方」「小中9年間を見通した課題設定」「ICTの活用」のいずれかに関わる内容の授業を基本とする。

② 学校・地域連携カリキュラムの改善と小中一貫教育の充実

昨年度の研修で作成した小中一貫9年間の学校・地域連携カリキュラムの改善に取り組み、授業実践に生かす。小中夏季合同研修会等で検討する。

③ GIGAスクール構想への取組

来たる生徒一人一端末時代に向けて、授業支援コンテンツの効果的な使い方や効率的な公務の進め方について研修を深める。

④ 遠隔授業・遠隔学習・通信型研修・テレワークへの取組

臨時休業期間の学力保障の手段として、オンライン学習の活用についての研修を進める。

4. 研究の進捗状況

① ユニット型研修について

普段の授業の中で研修テーマを意識した取組を行うため、本年度はユニット型研修（小グループによる気軽な公開授業研究）を行っている。研修の流れは以下の通りである。

- 研修はA～Eの5つのグループに分かれて行う。
- 各グループごとに授業公開日を年に数回設定する。公開日には、原則としてグループから2名の教員が授業を公開する。
- 授業者は、公開前日までにユニット型研修授業シート（簡易型指導案）を作成し、全職員に配布する。
- 授業者以外の教員は、公開された授業を参観する。ただし、同じ時間に授業が重なっている場合は、参観を行わなくてよい。他のユニットの教員が参観しても構わない。
- 参観者は授業終了後、ユニット型研修授業シートに気づきを記入し、授業者に渡す。

ユニット型授業研究の年間スケジュールに沿って、これまで約40回の授業公開を実施した。表1はその概要である。

日常的に気軽に授業公開することが目的なので、指導案も極力簡素化し、準備に必要以上に時間をかけずに済むようにした。本発表会における3つの公開授業についても、この研修スタイルの中に位置づけているため、あえて総案は作成していない。

授業後の研究協議の時間を設けるのは難しいため、授業シートに評価やコメントを書き、授業者に渡す形式をとっているが、授業者にコメントを渡す際にはやはりその授業のことが話題になることが多く、放課後の職員室ではその日の公開授業をもとに活発な意見交換が自然発生的に起こることも少なくなかった。

多くの授業において行われていた「対話的な場面」は本校の研修内容の大きな柱の一つである。教師が目指す内容に応じて適切な対話の手法が取られれば、学習をより効果的に進めることができる。そこで、適切な対話場面の設定ができるように、様々なタイプの「対話の手法」について各ユニットごとにまとめる研修を行い、授業の幅を広げられるようにした。

また、本市の学力向上推進リーダーである山本貴之教頭が発行する授業づくり通信「Progress2020」は、本校教員の授業改善・授業力向上の大きな指針となっており、「授業における生徒の動かし方がわかった」「授業づくりが根本的に変わった」「今までにない手応えを感じる事ができた」「『Progress2020』を読むだけで授業が上達した」と、本校教員から絶大な支持を得ている。その内容の一部を本研究発表会の研修資料として公開する。

第 27 号

令和2年6月30日

発行所 山本 貴之

授業規律

授業規律とは、授業改善に必ず必要です。

授業規律とは、授業中に授業がスムーズに進むように、教員が授業をコントロールすることです。

しかし、私は授業規律が苦手です。

「授業」の対義語は「非授業」です。授業とは、教員が授業をコントロールすることです。授業とは、教員が授業をコントロールすることです。授業とは、教員が授業をコントロールすることです。

授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。

つまり、授業規律は、教師が授業をコントロールすることです。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。

私は、授業規律が苦手です。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。

授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。

授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。授業規律とは、教師が授業をコントロールすることです。

授業づくり通信『Progress2020』

表1 ユニット型研修授業記録

実施日	ユニット	学級	教科等	授業者	単元名	ねらい・学習内容・研修テーマとの関わり
6/1	徳C	1年2組	数学	大田佳史	授業びらき	算数の知識やひらめきを通して、これまでの学習を振り返る。
	徳C	2年3組	国語	児玉美希子	詩「見えないだけ」	音読をし、各自が見つけた好きな表現やその理由を、似た意見や疑問等をつなぎながら発表させ、全体で対話するような雰囲気を作る。
6/3	徳D	2年3組	数学	前原大地	空間内の直線と平面の位置関係（空間図形）	「直線と平面の位置関係を考えよう」 立体の見取図の特徴をイメージすることで、直線と平面の位置関係を考えることができる。 小学校で学習した様々な立体の性質や特徴を利用し、直線と平面の位置関係について理解する。
	徳D	3年4組	社会	山根明宏	明治維新	新政府の政策を近代国家づくりに効果的であったかという観点でランキングする活動を通して、政策を多面的に考察することができる。 互いの考えを伝えあい、価値づけていく過程で、諸政策に対する理解をさらに深めることができる。
6/4	徳C	3年1・2組	保健体育	宮内秀一郎	集団考動	お互いの集団考動を観察し、生徒1人ひとりが気づいたことをワークシートに記入することを通して、実践することができる。
6/5	体E	あさなえB	学活	清水俊輝	あさなえ学級「新入生歓迎会」	「お互いのことをもっと知って仲良くなるう」 自分のことを語ったり、互いの発表に耳を傾けたりする活動の中で、自己肯定感や信頼関係の高まりが期待できる。
	体E	1年2組	社会	青木尚司	世界地図と地球儀	世界地図を見て立てた仮説について、個人または班、クラスで地球儀を使って検証、意見交換を行う場を設定する。
6/8	知A	2年1組	音楽	山本章子	合唱コンクール選曲委員の選出	クラス合唱の選曲委員を選出するにあたり、全員が委員の仕事を体験し、信頼関係のある決定の場にする。また、全員が合唱への思いを高める。
6/12	知B	1年4組	理科	矢上佳子	マツの花と種子	マツの花の観察を通して、被子植物との違いに気づくことができる。
6/15	徳C	1年4組	数学	大田佳史	正の数・負の数の計算（代数和）	トランプで経験した計算の考え方を、紙面上の計算でも実践することができる。 小学校で学習した基本的な足し算・引き算を利用し、負の数を含む計算ができる。
6/15	徳C	2年1組	英語	小野美登里	A Trip to Finland	be going toをペアでアイデアを出し合いながら、協力して会話の中で活用することができる。
6/17	徳D	3年1組	国語	古山慎也	学びて時にこれを習ふー「論語」から	生徒が知恵を出し合ったり、答えたりしながら、主体的に現代語訳をする。
	徳D	3年4組	社会	山根明宏	第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦の特色と、その戦争での日本の関わりについて、多面的に考察することができる。 互いの考えを伝え合ったり、話し合ったりする活動を通して、理解をさらに深めることができる。
6/24	体E	あさなえB	社会	中野美恵子	都道府県名	47都道府県の名称と位置が地図でわかる。 競い合ったり、問題を出し合ったりすることで、集中力を高め、持続させる。
	体E	3年1組	理科	中野未千尋	イオン式	イオンの構造を捉え、それをイオン式で表すとともにイオンのでき方について説明することができる。 イメージしづらいものについて、教え合う活動の中でアウトプット（級友との対話）を行わせることで、学習内容の理解を深めたい。
7/3	知A	1年4組	英語	青木英史	アクションコーナー 命令文の学習	アクションカードを用いて使用頻度の高い表現に習熟する。
	知A	1年1組	数学	相田康弘	乗法と除法の混じった計算（分数を含む乗除）	「逆数」を使って、分数の除法が〇〇〇計算できるようになる。（〇〇の部分は生徒が入れる）
7/6	知A	1年1組	英語	青木英史	Whatを用いた一般動詞の疑問文	相手の予定を尋ねたり、自分の予定を答えたりする活動を通して、Whatを用いた一般動詞の疑問文を理解することができる。
7/8	知B	1年4組	理科	矢上佳子	動物の生活と体のつくり	シマウマとチーターの体のつくりがその動物の生活と関係があることを説明することができる。
	知B	2年4組	社会	湊谷尊	外国船の出現と天保の改革	天保の改革によって日本がどのように変化したのか説明する。
7/13	徳C	3年3・4組	保健体育	宮内秀一郎	体育祭のプログラムの順番を考えよう	対話的な学び（お互いのワークシートを見る、マグネットを用いてグループやクラスの考えをまとめる）を通して、新しい気づき、考えを再構築することができる。
	徳C	2年2組	英語	小野美登里	What can we do for others?	I think that …をペア活動の中で繰り返し使うことで定着を図り、自分の考えを英語で表現できるようになる。

実施日	ユニット	学級	教科等	授業者	単元名	ねらい・学習内容・研修テーマとの関わり
7/15	徳D	1年あさなえA組	技術	西本裕志	あさなえ木工教室 「図書室のブックスタンドを作ろう」	地域の木工の匠たちの技術に学びながら、図書室のブックスタンドのけがき、切削、部品加工を行うことができる。 実習を通して地域の方と対話・交流しながら、技能を身につけるとともに、その都度、取組を評価し、生徒自身の自己肯定感を高める活動にしていく。
	徳D	3年1組	国語	古山慎也	俳句の可能性	俳句の空欄に当てはまる言葉について自由に意見を交わすことを通して、創作に向けて発想力を高める。 生徒の柔軟な発想を促しながら、俳句の可能性を生徒が感じられるような授業にする。
7/20	体E	1年1・2組	保健体育	江村勇希	体育理論（運動やスポーツとの関わり方）	自分の運動やスポーツへの関わり方を他者と交流する対話的な学びにより、様々な関わり方を知る。
7/22	知A	2年1組	音楽	山本章子	フーガ短調	フーガの構造を理解し、旋律の重なり合いやパイプオルガンの響きに着目して感想を書く。
	知A	2年1組	理科	上原潤	前線と天気の変化	あたたかい空気と冷たい空気がぶつかることで前線ができ、寒冷前線と温暖前線が通過するときの天気や気温変化を理解する。
7/27	知B	2年3組	美術	前田裕美	一点透視図法を学ぼう	簡単な立体を核活動を通して一点透視図法を正しく理解する。また、一点透視図法を用いて実際に簡単な風景画を描いてみることで技法の実践的な使い方を学ぶ。
	知B	3年3組	英語	奥谷由佳	あの人にインタビューしよう	発明王エジソンに関する情報を読み、インタビューに用いる質問を考え、練習をする。
9/14	知A	3年4組	数学	横山敬三	二次方程式の利用	二次方程式を利用して、動きのある問題を解決できる。
	知B	3年2組	美術	前田裕美	モダンテクニックを使った抽象表現	7種類のモダンテクニックを用いた自分の作品について振り返った後、作品の相互鑑賞を行う。
9/16	徳C	2年3組	国語	児玉美希子	「盆土産」三浦哲郎	実体験と重ねたり、ペアやグループで意見の交流をしたりしながら、登場人物の心情に寄り添って読むことで、初読時よりも読みの深まりを実感することができる。
	徳C	3年1・2組	保健体育	宮内秀一郎	体育祭（勇翔祭）を振り返ろう	対話的な学び（お互いのワークシートを見る、ホワイトボードを用いて、グループあるいはクラスの考えをまとめる）を通して、新しい気づき、考えを再構築し、仲間に伝えることができる。
10/30	知A	1年3組	英語	青木英史 奥谷由佳 Rob May 西本智美	地域の方と英語で交流しよう。 Which do you like better, sea or mountains?	地域の方と英語で考えを伝え合う活動を通して、外国語で理解し合えることへの喜びを感じ、英語の学習への意欲の向上につなげる。
11/2	徳D	2年2組	数学	前原大地	角と平行線	既習事項である線や角の名前や性質を振り返りながら、新たな角の位置関係について理解するとともに、様々な角度を求める問題に進んで取り組み、解決していけるよう促す。
11/4	体E	あさなえ2・3年	社会	中野美恵子	将来関わる選挙について知ろう	自分だけでなく、友だちも、選挙区の違いで結果が異なる体験を通して、選挙の方法の違いを理解する。
	体E	1年1組	社会	青木尚司	下克上	「下克上」という事象については小学校で学習するが、本時では下克上の起こる背景や要因を理解し、歴史は下克上という社会事象によって進められてきた側面もあることを知り、生徒の世界観の変容につなげたい。
	徳D	1年3・4組	技術	西本裕志	あさなえ木工教室 「本立てを作ろう」	地域の木工の匠たちの技術に学びながら、さしがねを使って本立てのけがきを行うことができる。 実習を通して地域の方と対話・交流しながら技能を身につけるとともに、その都度取組を評価し、生徒自身の自己肯定感を高める活動にしたい。

② 学校・地域連携カリキュラムの改善と小中一貫教育の充実について

昨年度作成した小中一貫9年間の学校・地域連携カリキュラムの改善については、小中合同夏季研修会において取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修時間・内容ともに制限のある中で十分に議論を深めるに至ってはいない。ただし、万が一再度臨時休業となった場合に備え、各学年で指導内容が重なっている内容についてはある程度把握し、指導の軽重をつける上での参考となるよう情報交換を行った。

また、中学校の授業改善という視点においては、小学校での学習内容を踏まえた授業づくりを行い、生徒が学習内容に連続性を感じられるように心がけている。

③ GIGAスクール構想に向けた取組について

来たる「生徒一人一台端末時代」に備え、可能な限りスムーズに端末を導入し、学習活動に活用できるように準備を進めている。具体的には、以下のような内容である。

(1) 光市の先行研究チームHEATと連携した情報交換（端末・アプリの選定等）

(2) 導入される授業支援ツール「MetaMojClassRoom」の活用法の研修

(3) 校務におけるICT機器の活用法

令和3年1月には全校生徒にタブレット端末が届けられる予定である。導入へ向けて、これから年末にかけて実際の授業支援ツールの使用法についての研修を本格的に進めていく予定である。

④ 遠隔授業・遠隔学習・通信型研修・テレワークへの取組

臨時休業における学力保障については、家庭訪問による課題の受け渡しの他に、以下のようなことに取り組んできた。

(1) オンライン家庭学習サイト「eライブラリ家庭学習サイト」の紹介

(2) 本校教員によるオンライン学習動画「浅江中Online」の配信

(1)については、小中9年間の全教科全単元の学習内容がクイズ形式で学習できるオンライン学習サイト（光市が全小中学生の利用ライセンス契約をしている）で、各家庭に紹介したところ、多くの生徒が臨時休業中に学習に利用するようになった。

(2)については、教員と生徒とのつながりが希薄になりかねない臨時休業期間中に、学校の様子を伝えながら学習に関わりのある内容を配信することを目的に行った。4月中旬に配信を開始し、5月下旬の学校再開まで合計60本を超える動画をアップロードした。

また、生徒への情報発信に加えて、臨時休業中の教員の研修をオンライン会議サービスを用いてリモートで行うなど、ICT機器を業務に活用する方法についての研修を深めることができた。臨時休業中におけるこうした研修や経験は、来たるGIGAスクール時代に対応するための意味ある研修になったと感じている。

5. 本発表会の公開授業について

本発表会の授業はすべて、ユニット型研修の授業の一つとして実施いたします。従って、指導案は総案ではなく、他のユニット型研修授業と同様に簡易指導案といたしました（ただし、他のユニット型研修指導案に比べるとやや詳しく目の記載内容となっています）。

授業後の研究協議においては、以下のような視点を中心に研修を進めていく予定です。

視点1	対話的な学びが効果的に行われ、教師がねらう変容が生徒に見られたか。
視点2	小中9年間のつながりを見通し、生徒が連続性・系統性・必然性を感じられるような工夫があったか。また、それが学習を深める上で効果的であったか。
視点3	ICT機器が効果的に活用されていたか。（ICT機器を使用した授業であった場合）

授業をご覧いただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

なお、オンラインでの公開授業・研究協議（英語・数学）については、インターネット接続環境によっては、映像や音声の乱れなど、様々な不具合が想定されます。可能な限り安定した接続環境で実施できるよう準備を進めていますが、当日の予期せぬトラブルの中には教員では対応しきれないものもあるかもしれません。全力を尽くしますが、ご不便をおかけしてしまった場合にはどうかご容赦いただきたく思います。

また、研究協議におきましては、オンラインで参加される先生方は授業に関するご意見をホワイトボードやA4サイズ程度の白紙にご記入いただき、webカメラに写して意見のやり取りをさせていただければと思います。お手数をおかけしますが、ホワイトボードもしくは白紙および太めのマーカー等をご準備いただけると幸いです。